



令和7年度

友愛の信 (柳城中学校だより)

第6号 令和7年10月24日発行 文責 校長 古賀俊文

後期の学習活動が始まりました

～半年間で、次の学年・新たな進路への備えを～



10月14日(火)後期の始業式を行いました。それぞれの学年の後半の活動が始まりました。3月には、次の学年または、新たな進路で生活のスタートの準備ができていることを期待します。1年生は、中学生としての自覚をもち、後輩を指導できる力を、2年生は、最上級生としてのリーダーシップを、3年生は、胸を張って新しい旅立ちができるような力を身につけてほしいです。一日一日様々な問題に粘り強く向かっていく姿を期待しています。

職場体験学習

2年生は9月4日、5日の2日間、地域みなさんに協力いただき、職場体験学習を行いました。体験学習後には、お世話になった職場へのお礼の手紙を書き、一人一人が職場体験レポートを作成しました。生徒の感想やお礼の手紙からは、「お客様のために」や「こどもたちのために、児童のために」といった、仕事で関わる相手のことを考える大切さを学んだ印象を受けました。また、協力していただいた事業所からは「掃除や大変な作業を一生懸命頑張った」「素直に注意や説明を聞くことができた」といった好意的な言葉をたくさんいただきました。生徒達が学校とは違う環境で、緊張しながらも熱心に取り組んだ成果だと思います。

地域の方に学習を支援していただいています。

地域学校協働活動の一環で、今年も2年生家庭科の学習で、地域みなさんに協力をいただいています。家庭科では「生活を豊かにするものの製作」の学習単元で、『エコバッグづくり』を行っています。この学習に、6名の方にご参加いただいています。実習が中心の活動になり、進度に個人差が



できることから、手縫いやミシンがけ、アイロンがけなど、生徒一人一人に合わせた個別の指導をお願いしています。地域の方に中学生と関わっていただくことで、思い出深いエコバッグにしています。詳しくは、次回お知らせします。



生徒同士の力で

生徒会スローガン ～『繋ぐ』～

ノーチャイムweekを実施しました

9月8日からの一週間、生徒会役員の企画で「ノーチャイム week」を実施しました。活動そのもののねらいは、「全校生徒が時間を意識して学校生活を送れるようにする」ということですが、それに加えて、総務委員会では、多くの委員会が協力する活動を作りたい、という願いがあったようです。期間中、風紀委員会は「遅刻検査」学習委員会は、「授業開始時間での着席」給食委員会は、「チャイムが鳴らない中での行動」について点検活動を進めていました。総務委員は、昼の放送で、ノーチャイム期間中の生徒の様子を伝えていました。

活動のあとに、総務委員に話を聞きました。活動を終えた感想として、まず、「時計を見て行動する生徒の姿が見られ、時間を意識している人が増えたな」という印象をもったとのことでした。一方で、チャイムが鳴らないため、遅刻かどうか、授業開始で着席できているか、給食の準備、片付けの行動に移せているか、という判断が曖昧になってしまった、とも話していました。「実際にやってみて、活動の難しさや課題も見られたけれど、クラスの中で、以前よりも呼びかけや、声かけをする人、またそれらに応じる人も増えたように思う。ノーチャイム week を終えたあとも、2分前ぐらいに着席できる人が多くなっている。クラス全体の雰囲気が委員会活動に目がいって、呼びかけがしやすくなった。」と成果をと課題を明らかにできているようでした。

風紀委員会が「花植活動」を行いました

風紀委員会は、10月21日(火)放課後の時間を使って、プランターに花苗を植え付けました。この活動は、旧環境委員会が恒例として実施してきた活動で、風紀委員会のリーダーたちは、花があることで学校の環境が整い、学校に来られた方に気持ちよい雰囲気を感じてもらいたいと願って、今年も実施することを決めたとのことでした。活動した風紀委員の中には、進んで自分の受け持ち以外の仕事をやっ



て生徒もいた様子で、楽しく明るい雰囲気で活動できたと話してくれました。一番の成果は「風紀委員同士で一緒に活動ができたこと」と話してくれました。

17日には、PTA生活向上委員のみなさんに、北門周辺に花苗を植えていただきました。これから校舎や体育館の入り口が華やかになっていくことでしょう。

【あいさつ】 【そうじ】 【聞く・聴く】 【話す】

☆地域で・家庭で・保育園で・幼稚園で・小学校で・中学校で

校区の子どもたちを育てましょう

柳城中学校区スタンダード

音楽文化発表会 スローガン「協奏」

～一つ一つの個性を輝かせて～

10月17日（金）に柳川市民文化会館で音楽文化発表会のステージ発表を行いました。当日のステージ上には、美術部が作成したスローガンが掲げられ、雰囲気を盛り上げてくれました。合唱コンクールに向けて、各学級で練習に取り組んできました。美術部や家庭部は展示発表に向け、長い期間作品作りに取り組んできました。展示作品については、各部の部長がステージで紹介をしました。



これまで生徒たちは音楽文化発表会に向けて様々に取り組んできました。また、前日準備も、それぞれ任された準備内容を一生懸命に取り組みました。生徒たちが準備する姿からは、翌日の行事を成功させたいという、強い意気込みを感じました。家庭部や図書委員、国語と理科の教科係は、「展示の部」のために校内で展示作業を行いました。また、実行委員や吹奏楽部、『JSC』のメンバーは、市民文化会館でリハーサルを行いました。そして、展示やリハーサルの役割がなかった生徒は、校内の清掃活動を行いました。各教室と廊下を中心に清掃しましたが、給食コンテナ室など、普段できないところも時間をかけて掃除していました。



音楽文化発表会は、市民文化会館で行った「ステージの部」と校内で行った「展示の部」を開催しました。

ステージの部では、開会式で校歌斉唱を行い、続く全校合唱で「夢の世界を」を、また『JSC』は「Story」を合唱しました。合唱コンクールでは、生徒たちに例年にないような緊張を感じました。10月から本格的な学級での練習を始めたため、実際には10日間ほどで合唱を作り上げています。この間、実行委員やパートリーダー、指揮者、伴奏者それぞれが学級の練習を引っ張り、自分たちの合唱を作り上げました。昨年を超えるような美しい合唱を白秋ホールに響かせ、生徒たちの力に驚いています。

「展示の部」は、多目的ホールのほか、渡り廊下や視聴覚室に、美術部、家庭部の作品、美術科の授業作品と理科の自由研究、七夕揮毫会の作品、さらに、図書委員会が募集した『図書ポップ』を展示しました。展示見学を17日午後から、学級ごとに行いました。作品の感想を記録しながら見学する生徒が多く、生徒からは、「うまい」「上手！」「すごい！」といった歓声が聞かれました。

音楽文化発表会を終え、実行委員長・副委員長はそれぞれ「とても責任を感じていて、無事に終わってほっとした」「合唱でも展示でも、お互いの協力が大事。学級も仲良くなり、協力することでも増えてよかった」と話してくれました。全校生徒の前でのあいさつや成績発表など、とても緊張していたということで、うまくいって安心した様子でした。準備をどう進めていいかわからなかったときは、仲間と話し合ったり先生から助言をもらったりして進めていくことができたそうです。今後も周囲と協力して、生徒会スローガンを達成できるようにしたいと、抱負を聞かせてくれました。また、後輩たちに向けて、「中学校生活を思いっきり楽しんでほしい」と話してくれました。

ステージの部は、保護者のみなさまにもご覧いただきました。発表生徒に応じて、席を交代していただくなど、ご協力ありがとうございました。なお、「展示の部」で出展した作品の一部を、10月23日から開催しております、『柳川市中学校合同作品展』で展示しておりますので、ぜひご覧ください。

